

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役 猿田 強	資本金	250,000千円	所管部課名
設立年月日	平成9年12月5日	県出資額及び比率	100,000千円 (40.0%)	観光文化スポーツ部観光戦略課
設立目的	歴史的・文化的価値の高い十和田ホテルを後世に伝えとともに、同ホテルの効率的な運営を図り、もって十和田地域の観光の振興に寄与することを目的に県等の出資により平成9年12月に設置。			
事業概要	十和田ホテルの諸施設の管理運営業務			
関連法令、県計画	なし			

2 令和2年度事業実績

4月に緊急事態宣言が発令され、冬季休業後の営業再開が7月となり、営業日数が前期比74日減少し131日間となり、宿泊人員は前期比6,716名減の6,382名、売上高は前期比122,980千円減の129,394千円と約半減となる大幅な減収となりました。また、徹底した営業費用削減に努めたものの営業利益は前期比41,190千円減の35,503千円の営業損失になりました。経常損失は持続化給付金、雇用調整助成金を計上した結果、19,768千円となり法人税等控除後の当期純損失は20,068千円となりました。

<事業目標・実績>

項 目	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
売上高（千円）	目標	262,000	261,000	235,000
	実績	253,106	129,394	—
個人客宿泊人数（人）	目標	14,500	13,200	11,300
	実績	13,098	6,382	—
顧客満足度指数	目標	90	90	90
	実績	90	93	—

3 組織

①役員数 (R3.7.1現在)

(単位:人)

区 分	取締役		監査役		役員報酬
	R2	R3	R2	R3	
常勤	1	1			支給対象者 (R2年度) 2人
内、県退職者					
内、県職員					
非常勤	7	7	1	1	平均年齢 62歳
内、県退職者					
内、県職員	1	1			平均報酬年額 (R2年度) 5,700千円
計	8	8	1	1	
内、県関係者	1	1			

②職員数 (R3.4.1現在)

(単位:人)

区 分	R2	R3	正職員
正職員	4	4	平均年齢 47歳
内、県退職者			
出向職員			平均勤続年数 11.1年
内、県職員			
臨時・嘱託	7	6	平均年収 (R2年度) 3,230千円
内、県退職者			
計	11	10	
内、県関係者			

③取締役会回数

令和元年度	令和2年度
4回	4回

4 財務

①損益計算書

(単位:千円)

区 分	令和元年度	令和2年度
売上高	253,106	129,394
売上原価	215,444	141,438
売上総利益	37,662	△ 12,044
販売費及び一般管理費	31,975	23,459
人件費(売上原価含む)	84,732	69,476
営業利益(損失)	5,687	△ 35,503
営業外収益	86	15,737
営業外費用		2
経常利益(損失)	5,773	△ 19,768
特別利益	27	
特別損失		
法人税、住民税・事業税	2,313	300
当期純利益(損失)	3,487	△ 20,068

<主な経営指標>

項 目	令和元年度	令和2年度	増減※
経常収支比率(経常収益÷経常費用)	102.3%	88.0%	△14.3
流動比率(流動資産÷流動負債)	1005.8%	1566.1%	+560.3
自己資本比率(純資産計÷負債・純資産計)	89.6%	63.4%	△26.3
有利子負債比率(有利子負債÷純資産計)			

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

②貸借対照表

(単位:千円)

区 分	令和元年度	令和2年度
流動資産	112,681	124,596
固定資産	6,905	12,874
資産計	119,586	137,470
流動負債	11,203	7,956
短期借入金		
固定負債	1,200	42,400
長期借入金		40,000
負債計	12,403	50,356
資本金	250,000	250,000
利益剰余金等	△ 142,817	△ 162,886
純資産計	107,183	87,114
負債・純資産計	119,586	137,470

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

<退職給与引当状況(単位:千円)>

要支給額	引当額	引当率(%)
9,000	1,200	13.3%

※中小企業退職共済制度へ加入している。

5 県の財政的関与の状況

…なし

◎法人の行動計画(平成30年度～令和3年度)

県関与のあり方 縮小・廃止 見直しの方向性 県保有株式の処分を目指し、当面は累積赤字の解消に取り組む。

課題 累積赤字の10%の削減を図る。

取組 継続的に黒字経営を達成すべく、人材の確保を図るとともに、国内外からのお客様に、料理・サービス・施設のより高い品質を提供することで、顧客満足度の向上を図り、さらなる売上拡大と生産性向上を推進していく。
【平成30～令和3年度】 当期純利益(累積赤字削減額) 各年度 3,500千円

実績 [当期純利益(累積赤字削減額)] 平成30年度: ▲ 1,895千円 令和元年度: 3,487千円 令和2年度: ▲20,068千円

1 公共的役割	A	2 組織体制	A	3 事業実施	(A)	4 財務状況	C
観光客、宿泊客に十和田湖の魅力を伝え十和田湖周辺の活性化に寄与している。国登録有形文化財および近代化産業遺産を有し、その維持管理に努めている。秋田県民限定プランを販売し、積極的に秋田県民の集客に努めている。		取締役会は法定回数の4回を開催している。充て職の役員も毎回取締役会に出席している。常勤役員はブローパー職員である。		自社ホームページをベストレートで設定し積極的に販売したことにより、昨年一昨年より大幅に予約数が増加した。		単年度損益および累積損益ともに赤字である。	

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	(C)	4 財務状況	C
県関与の縮小に位置づけられている法人であるが、十和田湖周辺地区の活性化に寄与し、また国登録有形文化財である建物の適正な維持管理を行うなど、一定の公共的役割を担っている。		取締役会は法定回数を満たしている。常勤の役員及び職員がおり組織体制は整っている。充て職の役員も取締役会に出席している。		新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、宿泊人数及び売上高は目標を大きく下回ったが、顧客満足度指数は高水準を維持し目標を上回っている。		新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、単年度経常損益は赤字となった。	

前年度までも業績は安定していなかったが、新型コロナウイルス感染症の拡大は、当年度の業績を悪化させることになった。売上高は前年度と比較してほぼ半減。粗利段階ですでに赤字の状態、35百万円の営業損失を計上した。持続化給付金や雇用調整助成金の受け入れにより、赤字幅は縮小したが、繰越損失金は20百万円増加して、当年度末時点で△162百万円まで膨らんでいる（資本金の二分の一を上回る状態が継続している）。経営安定資金を調達しており、当面資金繰りの心配はないと考えられるが、コロナ禍にあっても累積損失の解消に向け、今後も更なる対応策を継続して実施していくことが必要であると考える。

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	(C)	4 財務状況	C
三セクの行動計画上は「県が直接民間企業に委託することが可能な事業を主たる事業としている法人」に位置づけられているが、周辺地域の活性化など、一定の公共的役割を担っている。		常勤の役職員がおり、組織体制は整っている。		新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、宿泊人数及び売上高は目標の5割を下回った。 顧客満足度指数は高水準を維持し、目標値を上回っている。		新型コロナウイルス感染症の拡大により業績が悪化し、単年度赤字となった。そのため、行動計画の取組として掲げている当期純利益(累積赤字の削減)については達成できず、繰越損失金が増加した。繰越損失金は資本金の二分の一を上回る状態が続いているため、コロナ禍にあっても繰越損失金を解消すべく、更なる対応策を実施していくことが必要である。	

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	B	4 財務状況	B
評価結果を受けて実施した経営健全化に向けた対応（概要）							
新型コロナウイルス感染症拡大の経営状況の苦しい中、所属する部署にとらわれず、職員間同士で互いにサポートすることで人件費の削減に努めたほか、ホームページをリニューアルすることで、営業面における売り上げ増を図った。							